

1. 科目名 (単位数)	社会教育演習 (1 単位)	3. 科目番号							
2. 授業担当教員	栗山 究								
4. 授業形態	社会教育・生涯学習に関する基本論文を講読し、グループ討議を通じて受講者自身の課題を明確にする。	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係	本科目は、社会教育主事任用資格および社会教育士の称号取得のための選択必修科目の一つであり、他の社会教育に関する科目の応用編である。4年次に実施される「社会教育実習」に前段階に位置付けられることから、本科目受講前に「生涯学習概論」、「生涯学習支援論」、「社会教育経営論」を受講しておくこと。								
7. 講義概要	<p>生涯学習概論、生涯学習支援論、社会教育経営論の授業をふまえ、社会教育の現代的課題に関わるテーマについてテキストを講読し、社会教育・生涯学習の理解を深め、「社会教育実習」に参加する問題意識を深める。</p> <p>テキストとしては、日本社会教育学会年報や日本公民館学会年報等の専門学会誌掲載論文を予定している。受講者が学会誌掲載の論文から受講者が選択し発表し、教員の指導のもと質疑応答をおこない、文献理解を深め、社会教育・生涯学習にどのような課題があるかを把握する。</p> <p>本授業では、文献講読とともに、地域社会教育、生涯学習施設（公民館、図書館、博物館、生涯学習センター、放課後児童クラブ等の巡見をおこない、施設職員、スタッフ等へのヒアリングをおこない、社会教育、生涯学習の課題を体験的に理解する。</p> <p>受講学生は、理論的、体験的な学習を通じて得た知見をレポートとしてまとめ、4年次夏休み以降に予定されている社会教育実習に参加する問題意識を明確にすることをめざす。</p>								
8. 学習目標	<p>本授業では、受講者が4年次夏休み以降に予定されている社会教育実習に参加することを前提として、実習において学ぶべき課題、テーマを明確にすることをめざす。そのため、第1に、受講者は社会教育、生涯学習の専門学会誌の購読とディスカッションを通して問題意識を明確にすることをめざす。第2に社会教育、生涯学習施設の巡見を通じて、社会教育、生涯学習施設利用者の特性や学習活動を体験的に理解することをめざす。第3に、社会教育、生涯学習に関わる職員、スタッフに対するヒアリングを通して、職員、スタッフの職務内容を体験的に理解することをめざす。第4に、受講学生が各人の課題テーマを調査するためのノウハウを身に付けることをめざす。具体的には、地域の公立図書館、資料館、博物館の他、県立（都立）図書館、博物館など広域的な社会教育、生涯学習施設の活用ができる力をつけることをめざす。</p>								
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>本授業では、かつて社会教育職員であった担当教員が勤務していた社会教育施設での業務内容を事例に、そこでの関連文献を輪読するとともに、持続可能な地域社会づくりに関する現代的課題の学習講座ができるまでの実践記録を読み進め、社会教育職員の視点から学習者の学習分析を行う。あるいは、池袋キャンパス周辺地域における社会教育施設（生涯学習関連施設・図書館・博物館など）の見学会や実際の社会教育講座・実践への参画等を通し、地域の社会教育を経営するという視座を再確認していく。このことに関するレポートの作成・討論・発表および期末レポートが課題となる。授業展開の建付けをしっかりと理解し、各種課題は計画的に仕上げたい。なお、本科目は演習科目という関係、上記アサインメントは受講者人数・受講者相互の問題意識や興味関心の程度および現場の条件に応じて柔軟に変更していく可能性がある。</p> <p>各自の興味や問題関心に即して新聞記事・文献・実践記録等を収集し整理する時間などが必要となる。また、クラス内での話しあい学習の内容を把握し、相互に理解しあっていくことが求められる。授業内容や討議・演習で気づいたことを自分なりにふりかえる時間を自覚的に作り、配布資料は各自でファイルなどを用意してまとめておき、予習と復習に十分に活かしてほしい。</p>								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】各回授業テーマに応じて、担当教員が作成・編集した資料や学習記録を配布する。</p> <p>【参考書】東京社会教育史編集委員会編『大都市・東京の社会教育』エイデル研究所、2016年。日本社会教育学会・日本公民館学会などが刊行する専門学会誌掲載論文。</p>								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 学習目標の達成度において評価する。</p> <p>○評定の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>①授業内での発表内容</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>②授業内の討論への貢献度</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>③期末レポート課題</td> <td>50%</td> </tr> </table>			①授業内での発表内容	30%	②授業内の討論への貢献度	20%	③期末レポート課題	50%
①授業内での発表内容	30%								
②授業内の討論への貢献度	20%								
③期末レポート課題	50%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>(1) 本授業は、演習形式で展開するので、授業内容の理解は、毎回の授業（演習）に連続して出席することにより深まります。授業展開の建付けをしっかりと理解し、各種課題は計画的に仕上げ、正当な理由なしの欠席や遅刻は控え「自らが授業をつくっていく」という心づもりで主体的・積極的に授業に臨んでください。</p> <p>(2) 本授業の履修に際しては、生涯学習概論（2年次前期）、生涯学習支援論（2年次後期）、社会教育経営論（3年次前期）で学修した専門的知見が必要となります。当該授業を履修していない、あるいは履修済の受講生が当該知見を獲得していないと判断される場合は、本授業の前半部分で、その程度に応じて同科目で学修する授業の復習を行う場合があります。</p> <p>(3) 受講者の問題意識や興味関心の程度に応じ、さまざまな現場を紹介する機会も適時、設けていきます。学外授業の実施は、受講生各位と相談のうえ、検討していきましょう。受講者各位の追究の程度や議論の深化および現場での条件に応じて確定してくるので、下記の講義日程は柔軟に変更していく可能性があります。</p> <p>(4) 授業内の話し合い学習を踏まえ、可能な限り自分の暮らす地域をはじめ、地域の内外の諸活動を「社会教育を経営する」という観点からつなぎ合わせ、そこで学びあっている住民や住民の学びを支える人たちとともに学習を深めていく機会をつくってみてください。自分なりに学んだ内容をふりかえり、その内容を探究していこうとする姿勢や行動は、積極的に応援していきたいと思います。</p>								
13. オフィスアワー	個別での質問や相談等は、各回授業開始前・終了後の時間に対応します。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							

第1回	オリエンテーション	事前学習	生涯学習概論、生涯学習支援論、社会教育経営論での学習内容を復習してくる。
		事後学習	これまでの授業内容を確認し、本授業の建付けを理解しておく。
第2回	「学級講座における学習論の展開」を読む(1)	事前学習	事前配付資料を熟読し、わからない言葉は何かなど質問を用意して臨む。
		事後学習	社会教育を取り巻く環境の変遷を説明できるようにしておく。
第3回	「学級講座における学習論の展開」を読む(2)	事前学習	事前配付資料を熟読し、わからない言葉は何かなど質問を用意して臨む。
		事後学習	共同学習、教育委員会制度の両面から社会教育職員としての学習支援者としての役割を説明できるようにしておく。
第4回	社会教育職員の役割と学習支援者としての力量形成(1)	事前学習	事前配付資料を熟読し、学習者の学びに寄り添う公務労働者の役割を考えてくる。
		事後学習	「学びの循環」という視点から学習支援者はどのような役割を果たしているのかを具体的に考えてくる。
第5回	社会教育職員の役割と学習支援者としての力量形成(2)	事前学習	事前配付資料を熟読し、学習者の学びに寄り添う公務労働者の役割を考えてくる。
		事後学習	「現代的課題の学習」「企画運営会議方式」という視点から学習支援者はどのような役割を果たしているのかを具体的に考えてくる。
第6回	社会教育講座の実践事例分析(1)	事前学習	事前配付する学習記録を読み込み、自身の考えを整理して臨む。
		事後学習	地域社会における住民の学びの諸相を検討し、事業計画を展望できるようにする。
第7回	社会教育講座の実践事例分析(2)	事前学習	事前配付する学習記録を読み込み、自身の考えを整理して臨む。
		事後学習	NPO・社会教育関係団体・民間事業者との協働の在り方を説明できるようにする。
第8回	社会教育講座の実践事例分析(3)	事前学習	事前配付する学習記録を読み込み、自身の考えを整理して臨む。
		事後学習	講座に参画する学習者の学習課題を検討できるようにする。
第9回	社会教育講座の実践事例分析(4)	事前学習	事前配付する学習記録を読み込み、自身の考えを整理して臨む。
		事後学習	学習者主体の学びの条件整備のあり方を考え、その展開方法を検討できるようにする。
第10回	社会教育講座の実践事例分析(5)	事前学習	事前配付する学習記録を読み込み、自身の考えを整理して臨む。
		事後学習	学習支援者が提供する／提供した学習素材を分析できるようにする。
第11回	社会教育講座の実践事例分析(6)	事前学習	事前配付する学習記録を読み込み、自身の考えを整理して臨む。
		事後学習	学習者の相互学習と地域社会での実践の関わりを検討できるようにする。
第12回	社会教育講座の実践事例分析(7)	事前学習	事前配付する学習記録を読み込み、自身の考えを整理して臨む。
		事後学習	企画運営会議での相互学習と成立した社会教育講座との関係を説目できるようにする。
第13回	社会教育講座の実践事例分析(8)	事前学習	事前配付する学習記録を読み込み、自身の考えを整理して臨む。
		事後学習	講座を踏まえた新たな学習課題と地域社会での実践の展開を展望できるようにする。
第14回	現地見学会 ※第6回～第14回の期間中のいずれかで実施する	事前学習	社会教育講座の実践事例分析で取り上げた社会教育施設を実際に訪問するうえで必要な予習を行ってくる。
		事後学習	訪問した現場での学習内容を自身の社会教育実習に活かせるよう論点を整理しておく。
第15回	全体のまとめ 社会教育実習に向けて	事前学習	学習者の学習分析レポート(期末レポート)を準備してくる。
		事後学習	本授業で学習した内容をどのように社会教育実習に生かしていくかを考える。